

レベル 行動指標	基礎 レポート・論文を作成する際に、 京都大学で利用できるツールを把握している。	初級 与えられたテーマ・情報源をもとに レポートを作成できる	中級 与えられた課題について自らテーマを設定し、 先行事例を踏まえた上で自らの意見を 含んだレポートの作成・発表ができる	上級 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な 論文の作成・発表ができる	研究での実践 研究の現場において、情報を効果的に活用できる
主な対象	学部1回生	学部1,2回生	学部2,3,4回生	学部4回生、大学院修士課程	大学院生以上
1. 情報探索計画を立てる 大学という場での、学習・研究にふさわしい情報の探索を計画する	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学内の図書館を適切に利用できる。</li> <li>□ 京都大学が提供している電子ブック・電子ジャーナル・データベースの存在を把握している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 図書、雑誌、新聞、視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。</li> <li>□ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 調査テーマに関する先行研究の検索を行うことができる。</li> <li>□ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自身の専門分野において、どのような学術情報が、どのタイミングどの媒体で発表されるのかを把握している。</li> <li>□ 情報探索計画の実施においてプロセスを把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 遺漏の無い徹底した先行研究の検索ができる。</li> <li>□ 自身の専門分野以外においても、自分の研究テーマに関係がある先行研究を幅広く検索ができる。</li> </ul>
附属図書館の実施講習会(例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスシリーズ: 新入生ガイダンス</li> <li>・ガイダンスシリーズ: 留学生ガイダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献収集シリーズ: KULINE</li> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発信シリーズ: 卒論ブラッシュアップ講座</li> </ul>	
2. 情報を的確に入手する 探索計画に基づき、必要な情報を適切・効率的に入手する		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる。</li> <li>□ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 課題に応じて適切なメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源)を選択できる。</li> <li>□ 文献検索の検索語(同意語・上位語・下位語)を工夫し、演算子(AND・OR・NOT)を利用し、データベースを検索できる。</li> <li>□ 自身の研究テーマに合致した、適切なデータベースを選択することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。</li> <li>□ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 情報の所在とアクセス方法を理解し、必要に応じて、国内外の図書館以外の機関(公文書館・官公庁・NPOなど)から情報を入手できる。</li> </ul>
附属図書館の実施講習会(例)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献収集シリーズ: KULINE</li> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> <li>・文献収集シリーズ: はじめての論文検索 (GiNii Articles)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> <li>・文献収集シリーズ: はじめての論文検索 (GiNii Articles)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発信シリーズ: 卒論ブラッシュアップ講座</li> </ul>	
3. 情報を評価し、整理して管理する 収集した情報を活用する前に批判的に分析し、整理・管理する		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。</li> <li>□ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 入手した情報の正確性と、調査テーマとの関連性を評価できる。</li> <li>□ 資料リストを作成し、管理できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。</li> <li>□ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように整理できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ インパクトファクター等の評価指標の特性を理解し、情報の評価に活用できる。</li> <li>□ 学会誌の書評などを参照し、新しい研究成果を適切に評価できる。</li> </ul>
附属図書館の実施講習会(例)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 文献収集</li> <li>・文献収集シリーズ: Endnote</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発信シリーズ: 卒論ブラッシュアップ講座</li> <li>・文献収集シリーズ: Endnote</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究支援シリーズ: 論文投稿講座(論文不正)</li> </ul>
4. 情報を適正に活用・発信する 研究倫理に留意し、また適切な構成でレポート・論文を書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 一般的な体裁に則ってレポートが書ける。</li> <li>□ 引用と剽窃の違いが説明でき、適切に引用できる。</li> <li>□ 参考・引用文献リストを作成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 事実に基づく根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。</li> <li>□ 図表・音声・画像を適切に活用できる。</li> <li>□ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に配慮できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性を把握できる。</li> <li>□ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 論文を投稿する際に最適なジャーナルが選定できる。</li> <li>□ ジャーナルの規定や査読者への対応を十分に理解した上で投稿する。</li> <li>□ 研究成果をどのような形で発表するのが最も効果的なのか、戦略を立てることができる。</li> <li>□ オープンアクセスの意義とメリットを説明できる。</li> <li>□ 学術研究において求められる倫理的配慮を留意できる。</li> </ul>
附属図書館の実施講習会(例)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 実験レポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート執筆講座: 文系レポート</li> <li>・レポート執筆講座: 実験レポート</li> <li>・レポート執筆講座: LaTeX</li> <li>・研究発信シリーズ: プレゼン講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発信シリーズ: 卒論ブラッシュアップ講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究支援シリーズ: 論文投稿講座(論文不正)</li> </ul>